



連携を取りながら

話し合うことが大事

平成23年度 福祉有償運送実施団体の意見交換会
一月二十六日(木)午前10時から、ウエルとばた八階八十
二会議室で、「平成二十三年度 福祉有償運送実施団体の意
見交換会」が行われました。

今回は、北九州市のいのちをつなぐネットワーク推進課主催で、福祉有償運送運営協議会の構成員三名を含む、北九州市の福祉有償運送の実施団体六団体、十五名が参加しました。「さわやか」からは、四名が参加しました。初めに、いのちをつなぐネットワーク推進課の中島寛幸係長より「北九州市の福祉有償運送の実施団体の皆様方から意見交換会の開



催を強くご要望をいただいていたのですが、開催が遅くなった事を深くお詫び申し上げます」と挨拶がありました。

続いて議題に入りました。中島係長より、運営協議会への提出書類の様式の変更について説明がありました。数の変化の理由がわかれば課題が見つかるのでは

引き続き北九州市障害福祉団体連絡協議会古賀由美子事務局長より、「利用登録者の数や運転登録者の数

の変化についての理由などを書くところがあればいいと思います。その中に課題が見つかるかも知れないので、そのスペースはあったほうがいいと思います」との意見がありました。

中島係長より、「退会の理由など、課題として皆さんと共有したほうが良い事を各団体で提出書類の下欄に少し書き加えていく形でもいいでしょうか」と提案がありました。

また山田理事長より、「運転登録者の方に関しては辞めた場合は、事務局に理由書を提出してはありますが、一度も運営協議会にはあがってきていません。その中で共有する事由などがあれば書類の写しなどを運営協議会に出していただいたほうが良いかと思えます」と述べました。

研修会中止のお詫び

二月五日(日)に予定しておりました、第42回ボランティア研修会を中止させていただきます。

今回、一月の下旬から、北九州市などにインフルエンザ流行の警報が出ておりましたので、やむなく研修会を中止とさせていただきます。

参加予定のボランティアの皆様には、大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。心よりお詫び申し上げます。



ご迷惑をおかけして申し訳ありません

団体によって

記載内容に差がある

続いて、自家用自動車有償運送事業の半期報告についても、運営協議会の構成員から、今までに提出いただいた書類の内容が各団体によって、記載されている内容に差があると指摘がありましたので、いくつかを紹介いたします。

・数年前から各団体に助成金を出していますが、助成金を収支報告書の収入の部にきちんと入れてほしい
・収支報告書の収入の部で、利用料金の内訳として、実際の運営収入、入会金や年会費が分かるように内訳を作成してほしい

などがあげられました。

山田理事長より、「収支報告書は、各事業所で勘定科目が違ってはいますが、ある程度、項目を統一出来る様に雛形を作った方が良くないか」と提案がありました。



ました。中島係長より「これまでに収支報告書を提出していただいた項目を参考にしながら、サンプルを提案したいと思えます」と回答がありました。

「まだか」の西村理恵氏より、「年間で二回報告書を出すなかで、下半期報告は対前期、年間報告は対前年と増減の比較を記載するようになっていますが、一つの事業所ごとにここまでして報告書を出す必要があるのですか」と質問がありました。

中島係長は、「団体の皆さんが、年間報告書を作成した物を委員の方々にお知らせした方がいいと思えます」と述べられました。

清田課長より、「年間報告の中で半期分と年間分の増減の計算をするのは手間がかかるので、半期分が年間分を増減を出すだけで良いのではないかと意見を、運営協議会の方に提案します」と回答がありました。

中島係長より、「運営協議会の構成員の方から運転者名簿の中に免許の取得年月日と、有効期限を入れてほしい」と提案があったことが報告されました。

(裏面につづく)

障害がある人の人権侵害・差別はどうしたら減るの！

二月十八日(土) 十時よりウエルとばた六階A・B研修室で北九州市障害福祉団体連絡協議会(以下障団連)主催で、平成二十三年度障害のある人の人権シンポジウムパートII「障害がある人の、人権侵害・差別はどうしたら減るの！」と題して行われました。

「さわやか」から四名が参加しました。

障団連事務局長の古賀由美子氏より、これまでに取

(おもて面より続き)

次に、福祉有償運送実施団体の意見交換に入りました。各団体から問題点や悩みなどを出しあいました。

安全運転を再認識する為に

共同で講習会を

山田理事長からは、「運営協議会の中でも出ていたと思いますが、ボランティアの皆さんは初めに一回、安全運転講習を受けただけで、その後は講習を受けることはありません。事業者の立場としては、全員にフォロワーアップ講習を受けてもらう事は大変ですが、安全運転を再認識する為には、何

意見交換会を続けていく

また、「ふれあい福祉」の山本事務局長は、「一日でドライバーの方を集める事は難しいと思います。少し大きな規模で、二、三日に分かれて講習会を行なっていただければ、最終的に全員参加出来ると思いますし、

年かには一回は、受講してもらおうようにしたほうが良いと思います。事業所自体で研修をしているところもありますが、北九州市の事業所が集まって、共同で講習会をしたら良いのではないのでしょうか」と提案しました。

まず、シンポジウムのコーディネーターを務める林芳江氏より、「北九州市は障害福祉が進んでいますが、

入りました。初めに、四人のパネラーの方に、自己紹介と、今行っている取り組みや、活動について話していただきました。

コーディネーター

林芳江氏

(北九州自立生活センター)

パネラー

早崎寿宏氏

(北九州市保健福祉局)

障害福祉課

土谷瑞彦氏

(北九州市人権推進センター)

立目章氏

(北九州市障害者)

自立支援協議会)

田中雄平氏

(北九州市障害福祉)

団体連絡協議会)

障害者が地域の中で暮らしていく中で、困っていることを理解してもらおう事が必要です。

運動者の方々が研修に集まることが難しいのであれば、ビデオを見るような形でも良いと思います。この意見交換会は、全体で連携を取り集まって話をする事でメリッ的なものが生み出せなかつたと感じることもありますが、意見交換会を続けていくことで形ができていくのではないのでしょうか」と述べられました。

今後この意見交換会は続けてほしいと言う意見やその他にも、事故防止の対策や、コーディネーターの確保など、多くの質問や意見ができました。そして意見交換会は十一時四十分を終了しました。

しかし、理解してもらえていないのに、対等に扱ってほしいという事は、一般の方からみると理解し難いのかと思います」と述べられました。

次に、立目章氏より、「障害のことをわかってもらうのではなくて、そこに住んでいる健常者とお互いに困っていることを共有し、相談したらいいのではないのでしょうか」と話されました。

また、土谷瑞彦氏より、「世の中の人には、障害者を差別してはいけないことは知っています。差別が残っているのは、平等に接する方法を知らないからです。

障害者のことを理解してもらえない場をどう作っていかのだと思います」と話されました。

障害者と平等に

接する方法を知らない

また、土谷瑞彦氏より、「世の中の人には、障害者を差別してはいけないことは知っています。差別が残っているのは、平等に接する方法を知らないからです。

障害者のことを理解してもらえない場をどう作っていかのだと思います」と話されました。



パネラーの方々

田中雄平氏は、「昨年行ったアンケートの回答を見てみると、障害のある方に差別をしてはいけないとわかっています。無意識で行っている人が多かったようです」と報告されました。

続いて、早崎寿宏氏より、「これから、差別禁止法ができる中で、何が差別にあたるのかということについて議論をもっと深めていくことが大切だと思います。

また、障害のある人となっていくことは、非常な大切なことです」と話されました。その他に、土谷氏より人権啓発のパンフレットの説明がありました。

お互いに

譲り合う気持ちが大事

林芳江氏より、「自分の問題は自分で解決に立ち上がっていく事には変わりありませんが、やはりそこは一緒に考えていく運動をしていかなければいけないと思います。今後お互いに譲り合う気持ちが大切だと思います」と話されました。

他にも、多くの意見が出され、活発な意見交換が行なわれましたが、時間となりシンポジウムは、十二時二〇分に終了しました。